



3

危険予測学習

指導のねらい

交通場面における様々な危険を予測できる力とそれを回避する力を身に付けさせる。

ワークシートを使用し、「場面を読み取る」→「考えられる危険を予測してみる」→「危険を回避するための方法を考える」→「安全行動の実践」の順で議論し、様々な交通場面で正しい判断ができるようにする。

●活動例 学級活動、地域での活動

●指導計画のポイント






班の中でワークシートの内容について発表・議論することで、意識の定着を図る。時間がとれないときは、シートの配付で一人ひとりに身に付けさせるよう配慮する。

●事前準備

ワークシートを事前に課題として配布しておくこと、班での検討時間が長くとれる。

●指導の流れ

【具体的指導内容】（学級活動での使用例）

指導の流れ	留意点／ポイント
教師 ①学習の流れの説明・交通場面の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の写真をよく見て状況を判断し、どのような危険性が考えられるか、危険を回避するにはどうしたらよいか考えるように促す。
生徒 ②危険予測学習 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートには、一問一答ではなく、思いついたことはすべて記入するようにさせる。 ルールを知らないことに起因する場合は、【指導事例4交通法規指導⇒p. 16～】の学習シートを利用する。
生徒 ③班分け 	<ul style="list-style-type: none"> 班ごとに班長（進行役）を決める。
生徒 ④「危険の予測と回避の方法」の意見の交換、集約 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを事前に配っていた場合は、班での検討の時間を延長する。 時間がとれば、発表の時間を設け、他の班への質問や解決策の追加等の意見を出してもらい、活気ある意見交換による意識の定着を図る。
教師 ⑤まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> 自分からは見えていない部分にある危険を予測し、安全な行動をとる。 危険に対応できるようスピードを出さない、安全確認をするなどのルールを守ることが、事故防止に有効であることを理解させる。 <p><各写真の守るべき交通ルールのポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> A 見通しの悪い道路での安全確認（標識等の確認） B 歩行者や左折の車に気を付け、信号に従って定められたところを通行する C 他の車に気をつけながら車道の左側を通行する D 歩行者に気を付け、定められたところを通行する